

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院選定委員会における委員からの意見

項目	委員の意見
拠点病院の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が素朴に抱くアレルギー疾患医療拠点病院への期待をなるべく裏切らないことを希望します。相当の不十分さが存在しますが、ホームページ等で拠点病院であること、同時に担当部門・担当責任者の存在を広報して欲しい。 ・ 名前が「拠点病院」だと、この病院で何でも診てもらえると誤解されやすいので、人材育成の面を強調してもらいたい。 ・ 拠点病院で何でも診てもらえると伝わると、混乱をきたすと思う。拠点病院は一般の病院では対応できない難治性や最新の治療が必要な時、コンサルトできる病院であるという体制を、一般県民に理解してもらうことが必要だと思う。特に最初に周知するときに重要だと思うので、気を付けていただきたい。
拠点病院を中心とした診療連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各拠点病院の協力関係は、今後のアレルギー疾患対策を容易に検討・策定する基盤になると考えます。 ・ 拠点病院を中心として愛知県内で同じ医療が受けられる体制を整備するために、拠点病院間で連携して拡大していただきたい。 ・ 各拠点病院でそれぞれの診療科の強みを活かし、双方の弱点がカバーできるような体制とするのも良いかと思えます。 ・ 5つの診療科の診療連携体制が大切と思われる。体制ができていることによって、診療実績や情報提供、人材の育成につながってゆくものと思われる。 ・ アレルギー疾患で受診する患者に対して各診療科で合同して診療に当たることのできるシステムが整っていること。こうした連携プレーがあることによって、アレルギー疾患を総合的に診察できるための人材育成の教育システムが確立できていること。
拠点病院の地域性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三河地方に拠点病院がないため、対策を考える必要がある。 ・ 現在の選定基準ではハードルが高く、三河地方で基準を満たす病院がないので、選定基準を見直すことも検討してもらいたい。 ・ 将来は、医療圏や人口のバランスを考え、選定基準のハードルを下げ、三河地方に拠点病院が設置できるようにするのも良いと思えます。
地域における診療連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療は現在でも一般医療機関で対応しており、重症例は時間との勝負ですので、最寄りの高次医療機関で対応すべきだと思う。 ・ 一般的な患者はかかりつけ医に行くべきで、拠点病院が患者を抱え込まないようにしてもらいたい。特にアナフィラキシー等は一刻を争うので、地域の病院も重要になる。 ・ 現在は拠点病院が大学病院だが、市中病院が加わらないと実質的にアレルギー疾患対策が進まないと思う。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般住民の方に対するサポート、啓発も必要と思う。 ・ 非常に多様な治療法があり、患者がある治療法を盲目的に信じているということもあるので、患者に対して、全体のアレルギー疾患医療の流れなどを伝えることが出来ると良い。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー疾患を主に診療されている地域の先生やかかりつけ医のごく一部で、ガイドラインを逸脱した自己流の治療をされている方もいるので、指導を行っていただきたい。 ・ 多職種の人材育成システムを構築していただきたい。 ・ 人材育成は一般医療機関の方が大学病院などより貢献できるのでは。拠点病院では、アレルギー診療の軸となる人材を育成していただきたい。 ・ 眼科のアレルギー専門医については、現在全国でも20名を下回っており、愛知県を含めて中部地区にはいない状況である。アレルギー性結膜疾患の罹患患者数の多さに対して眼科医のアレルギーについての関心は高いと言えない状況にあり、その意味でも情報発信の必要性を感じている。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー疾患の誘因となる地域特有の社会環境や生活・衛生環境の調査も含めた取り組みを期待する。すなわち、アレルギー疾患の動向を解析し、将来の社会環境や生活・衛生環境を改善すべく地方行政などに反映させることが重要と考える。 ・ アレルギー疾患には解明されていない面が多々あり、ベッドサイドの臨床研究も必要と考える。地域のアレルギー診療の底上げと研究の両立によって最終的にはアレルギーで悩む患者のQOL改善を解消することと考える。